

## 夏季離島実習 ～南さつま市コース～

### 【坊津病院】

坊津病院では、病院内の施設見学、外来や病棟の見学、胃カメラや腹部エコーの見学、訪問診察など、様々な実習を行った。坊津地域は、現在、高齢化率50.1%ということで、実習中に見学させていただいた患者さんの多くは高齢者であった。他の症状で病院を訪れている患者さんでも、認知症を患っている方が多く、認知症の患者さんとのコミュニケーションの取り方を、実際に間近で見ることができた。

また、火曜日の午後は、訪問診察の様子を見学させていただいた。訪問診察の見学を通して感じたことは、病院での診察と比べて、患者さんの生活環境が把握しやすく、それによって、より患者さんに寄り添った診療ができるということであった。また、患者さんを介護する方も高齢者である家庭が多く、車で運転をして病院へ行くことができないことが多いので、訪問診療は高齢者の多い地域では、特に良いと感じた。秋目診療所での診療の様子も見学したのだが、患者さんが口々におっしゃっていたことは、地域枠出身の永富先生は、病気のことだけでなく何でも相談することができて、本当にいい先生が来てくださったということだった。地域枠出身の先輩が、地域の皆さんに信頼されながら診療をしている姿を目にして、私も将来、そんな医師になりたいと感じた。

### 【薩南病院】

薩南病院では、医師の仕事の様子だけでなく、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師など様々な医療スタッフの仕事を見学させていただいた。医師の先生方は、患者さんだけでなく、周りの医療スタッフの方々とのコミュニケーションも大事にしているそのような連携が、よりよい医療に結び付くのだと感じた。医師以外の仕事の様子をじっくり見学する機会は、これから先少ないと思うので、大変貴重な経験ができたように感じた。

～俳句～

手を取り合う 白衣の先に 笑顔みる

(背景)

訪問診療を見学し、患者さんが週に数回の診察を心待ちにしている、病気のことだけでなく、その週に起こった出来事などを先生に楽しそうに話し、笑顔で帰っていく姿が印象的だったので、このように詠んだ。

## H29年夏季離島実習事後レポート

今年の離島実習は南さつま市で行った。南さつま市は人口 34429 人の鹿児島県の南西部に位置する市である。初日と 2 日目は南さつま市立坊津病院で実習を行った。病床数は 44 床、常勤医師は院長の鷺山先生と永富先生の二人である。まず始めに院内を師長さんに案内していただいた。坊津病院は外観・内観共にとても綺麗な病院だと思った。事務の方に坊津の人口の推移を見せていただいたが、総人口は年々減少していた。そして、H29 年の高齢化率が 50% を超えていたことにはとても驚いた。それに伴い、坊津病院の外来患者数も減少傾向にあった。へき地や離島では医師不足が問題にされることが多いが、病院の経営という観点から考えると、むやみに医師の数を増やせばいいというものでもないのだと思った。

初日の午後は地域枠一期生の永富先生の訪問診療に同行させていただいた。最初に訪問したのは「尊丘の家」という施設。ここでは、寝たきりの方からしっかりと会話ができる人まで様々な方が入居されていた。この施設を見学して思ったことは、施設のスタッフの方も高齢であるということ。この施設を存続させていくのにも苦労があるだろうと思った。次に向かったのは「秋目診療所」。この診療所は火曜日と金曜日の週 2 日だけ永富先生が 14:00~16:00 訪問して診療を行う。私たちが診療所に到着した時にはすでに何人かの患者さんが永富先生の到着を待っていた。この診療所にいるスタッフは看護師さんが一人のみで、受付・会計・血圧測定・薬の処方なども全て一人で行わなければならない。医療機器もほとんどなく心電図と血圧くらいしか測ることができない。しかし、この診療所は単に診察をしてもらうということだけではなく、地域の人たちが集まって遊んだり世間話をする場という機能も果たしていた。診察が終わってからほとんどの患者さんは診療所に残り、談笑していた。患者さんとお話しして中で一番感じたことは、永富先生がこの上なく信頼されているということ。どの方も口を揃えて「とてもいい先生」と言っていた。そんな風に信頼されている永富先生がとても頼もしく見えた。そして、将来自分もどこかの地域で医師として働いた時に、たくさんの方の力になりたいと思った。最後に診療所の近くのお家への往診に同行させてもらった。どの患者さんの時でも言えることだが、永富先生は患者さんしっかりと会話をするを大切にしているように感じた。症状のことだけではなく、日常の何気ない話も先生に聞いてもらうことで患者さんは安心して見えた。

2 日目はまず午前中に院長の鷺山先生について外来を見学させてもらった。まず第一の印象として認知症を持っていらっしゃる患者さんがとても多かった。これからはますます高齢化が進み、それに伴って認知症の患者さんも増えていくと思うので私たちも認知症患者との接し方をしっかり学ばなければならないのだと思った。認知症は人間関係、特に家族との関係を壊してしまいやすい病気だと鷺山先生はおっしゃっていた。そのため周りの人間は患者のプライドを傷つけないように心がけなければならない。

午後からは病棟の見学をさせてもらった。病棟にいらっしゃる患者さんは寝たきりであったり、会話もほとんどできないような方が多かった。病棟の患者さんになると認知症でない方が珍しいと鷺山先生がおっしゃっていた。しかし、呼びかけに答えられない患者さんでも耳元で大きな声で、目を見て話しかけることが大切だともおっしゃっていた。回診中ベッドの向こう側に自ら回り込んで患者さんと視線を合わせて話すようにしている姿が印象的だった。

3 日目と 4 日目は県立薩南病院で実習を行った。薩南病院は病床数 140 の大きな病院で、診療科の種類も多かった。院内を一通り回るだけでもかなり時間がかかった。医師や看護師だけでなく技師や薬剤師、理学療法士、作業療法士など様々なスタッフが連携しておりそれぞれ仕事が分担されていて、組織的な側面をとっても感じた。また、そういったたくさんのスタッフといかにもうまく連携を取れるかが大きな病院では大事になってくるのだと感じた。まずは外来を見学させてもらった。診察室にはそれぞれクラークがついており医師はより診察に集中できるようになっている気がした。電子カルテが導入されていて、キーボードを打ちながらだったが、それでもできるだけ患者さんの目を見ながら診察を行おうとしているのが感じられた。次に病棟見学と看護師体験をした。看護師体験では注射の用意や清拭を体験させてもらった。患者さんにお礼を言ってもらった時には少しでも力になれた気がして嬉しかった。看護師さんはとても仕事が多そうと皆忙しそうという印象を受けた。看護師さんの気持ちもわかってあげられる医師になってほしいと言われた。次にリハビリ室の見学をした。ここでは理学療法士と作業療法士の違いや言語聴覚士の仕事などを教わった。最後に車椅子の患者さんが歩く手伝いをしたがなかなか歩けなかったものの、理学療法士の方がするとすんなり歩いていたのを見て驚いた。次に薬局の見学をした。ここでは薬剤師さんが薬を作ったり、患者さんが服用しやすいように日毎に包装したりと思っていたよりもたくさんの仕事があった。また、病棟のかんじゃさんへ

の服薬指導も見学した。処方するだけでなく、その薬をしっかりと飲んでいるかを知ることまでが大事だとおっしゃっていたのを聞いて確かにそうだと思った。

今回の実習でたくさんの先生の診察を見学させていただいたが、どの先生も患者さんからとても信頼されているように見えてとても感動した。地域医療では患者さんとの心のつながりが特に大切だと思うので、私も患者さんとのコミュニケーションを忘れず信頼される医師になりたいと思った。

俳句

目を向けて 機器はなくとも 心を聴く

背景：秋目診療所では、聴診器や血圧計などの限られた医療機器しかないが、先生がしっかりと患者さんの目を見て病気のことだけでなく、日常生活のこともたくさん聞いてあげることで、患者さんが安心感を得られてたのが印象的だった。